

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590500187		
法人名	株式会社Kitahamanokaze		
事業所名	グループホームタナギ		
所在地	秋田県由利本荘市岩城内道川字水呑場28-30		
自己評価作成日	令和4年10月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.akita-longlife.net/evaluation/">http://www.akita-longlife.net/evaluation/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和4年12月6日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1 食事は利用者の要望を取り入れながら立を作成し、満足を得るようにレベルアップを図る。
2 明るく笑顔が絶えない施設環境作り。
3 管理者が看護師である。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新型コロナウイルス感染予防の為、現在も特に人との交流と外出が以前のように出来ない状況下で、代表・管理者・職員全員により、日々一人ひとりの気持ちに寄り添いながら支援されています。日常会話を通しそれぞれの思いや意向を把握できることも多く、玄関でガラス越しに、またリモートで家族と面会していただくなど、今できる範囲での支援が実施されています。食事の一連の作業を、利用者一人ひとりが出来ることを行いながら、旬の食材や近所の漁師仲間から取りたての魚を買い夕食にすることもあり、美味しいものをみんなで楽しく食べられるよう取り組まれています。
--

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
47 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	54 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
50 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57 職員は、生き生きと働けている (参考項目:10)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①人々の心に触れ人々の役に立ち②創意工夫にて地域に潤いを発生させ③共に成長し分かち合う④お互いの自由を尊重し合う⑤それが楽しい人生の形となる	毎朝のミーティング時には代表も出席し、事業理念を確認、振り替えながら実践に繋がっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ過でなかなか施設内に地域の方を入れることが出来ないが、地域のクリーンナップに参加したり、近所の魚屋から採りたての魚を買って夕食に出している	コロナ禍の中での地域との交流は難しいが、自治会の草刈りに参加したり、また定期的に理髪店からの訪問など可能な範囲で交流が続けられています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	散歩している時に地域の方に挨拶したり、地域の方で入居の相談に来た方に認知症の対応の方法などをアドバイスしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ過で施設での運営推進会議が出来ておらず、書面で委員の方に報告しているため、意見交換はできていない	定期的に事業所の取り組み状況を文書で報告、意見などがあるときは、サービスに反映するようにしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域のケア会議に参加し、地域の他事業所の実情や情報を得たり、事例発表することでアドバイスを受けケアサービスに繋げることが出来ている	市の関係者に事業所の取り組みや要望を伝えることもあり、また書類申請時には窓口に出かけるなど協力関係を築くようにしています。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束や虐待の防止に対する委員会を3ヶ月ごとに開催し、話し合った内容を職員全員で共有したり、内部研修を行い身体拘束や虐待の具体的な行為を理解すると共に、身体拘束をしないケアや虐待防止に努めている	全職員は拘束の内容や弊害を認識しながら、拘束のない支援に取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症で発語が無く、コミュニケーションが取れない利用者の看取り介護時は、家族や市役所の生活保護課と連絡を取り合い、利用者が不安なく過ごせるよう支援している		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に利用者や家族に契約書や重要説明書などの説明を行っているが、ポイントを絞り分りやすく説明を行い、不安や疑問には後日でも電話でも対応している。また、退所時も同様に行っている		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	家族が面会や支払いで施設訪問した際に要望を聞いたり、ホームページで施設の行事や情報を公開している。また、苦情にも適切に対応し、運営に反映させている	要望などが合った場合はスタッフ会議の中で話し合い、またラインで意見交換したりして運営に反映しています。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	申し送り時に代表者が管理者が参加し、会社の方向性について話し合いを持ち、職員から意見や提案を聞き、処遇改善に繋げています。	カンファレンス時には、全職員から要望や提案を聞き処遇改善などに反映しています。提案により改善された事例もあります。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染対策で、他施設への見学はできないが、必要時は同業者にFAXやメールなどを行ったり、グループホーム連絡会に参加して交流することで、サービスの質の向上に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にケアマネジャーと連携を図り、本人や家族に施設を見学してもらい、要望を聞いたり、困っていることや不安に思っているがあればその都度対応し安心して入居してもらうよう心掛けている		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や入居時に家族が困っていることや、不安なことを聞いたり、相談相手になって少しでも不安なく入居できるよう努め、要望に耳を傾けている		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に野菜の皮むきやおやつをセッティングしてもらったり、山菜の処理などを行ってもらっている。また、毎日洗濯物や新聞を畳んでもらいながら、会話している		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者との会話から情報を得たり、面会時家族から情報を得て、必要時は家族に電話したり、面会に来てもらい、家族の絆を大切にしている		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	馴染みの人が面会にきたり、電話がきたりしたら取り次いだり、利用者本人が電話したいと話す時は電話をかけられるよう支援に努めている	日常の会話の中で馴染みの人が話題になることもあり、できる方法で関係が途切れないように支援しています。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者や独りが好きな利用者を把握しながら、スタッフが会話をつなぎ、話しやすい雰囲気を作り、孤独感を感じさせないように、支え合うような支援に努めている		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、必要に応じ家族から情報を得たり、他の施設に入居した時は情報を流したり、相談や支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	個々の暮らし方に沿うよう、希望や意向を聞き、なるべく要望に応えられるよう検討している。仏壇を持ってきたり、床に布団を敷くなど	代表や職員からの話しかけによって把握することも多く、スタッフ間で情報を共有しながら支援しています。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネジャーよりフェースシートをFAXしてもらったり、家族から情報を得て、その人の生活環境や生きがいに繋がる事を把握するよう努めている		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	申し送りで課題があったり、スタッフ間で悩んでいること時は、その都度カンファレンスを行い、介護計画を作成している	非常勤の介護計画作成担当者も介護に携わることもあり、一人ひとりの状態を把握しながら、本人本位に現状に即した介護計画が作成されています。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	介護記録にその日の様子やケア内容、気づきを記載しており、連絡ノートや申し送り、カンファレンスでスタッフ間で情報共有し、実践や個別の介護計画の見直しに活かしている		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	春は花見に出掛けたり、山菜の処理を手伝ってもらったり、夏は施設から見える花火を楽しむんだり、秋はみんなで干し柿作りを行い四季を感じながら暮らしを楽しんでいる		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の定期受診は協力医に出掛けているが、状態悪化時は主治医に状態報告し救急搬送したり、専門医や総合病院に受診している。また、必要時歯科に往診依頼している。かかりつけ薬局より、状態によって散剤や一包化してもらっている	管理者は看護師でもあり、受診時には日常の状態を適切に報告し、受診情報は連絡ノートで共有、必要に応じて家族にも報告しています。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は利用者の体調変化があった時やバイタルに異常があった時は看護師に相談し支持を仰ぎ、必要時は受診している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した時は、病院の看護師や相談員と連絡を取り、早期退院できるよう情報交換したり、相談している。必要時は病院に出掛け担当看護師から病状を確認している		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や終末期について家族に説明し、当施設での対応困難な時は主治医や家族、ケアマネジャーと連携を図っている。看取り介護を希望する利用者には看取り介護指針の説明を行い、医師、看護師、介護職員などで支援している	事業所の「終末期の対応に係る指針」を全職員が共通認識し、かかりつけ医・家族などと連携しながら取り組んでいます。看取り事例もあります。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の内部研修を行い、応急処置や初期対応について確認している。夜間の急変時は管理者や近くの職員が駆けつける体制を整えている		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、地震や水害の避難の方法を話し合っている。夜間職員1人なので、非難誘導の方法や地域の人にも協力をお願いしている	夜間の火災想定で避難訓練を実施、終了時には課題などを話し合い、また消防署の協力を得て通報訓練も実施されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、利用者からきつい言葉や暴言を言われた時にも、その人の誇りやプライバシーを損ねないような対応をしている	言葉掛けは自分に置き換え、日常のお互い確認しながら取り組んでいます。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の方に協力してもらい、季節ごとに衣類の交換をもらったり、縮んでしまったり、敗れた場合は新しい物を購入してもらっている。また、定期的に理髪店に訪問してもらっている		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力を生かしながら、野菜の皮むきや盛り付けなどを手伝ってもらったり、洗いや茶碗を拭いてもらっている。また、男の利用者にはおやつを配布してもらったり、コップを片付けてもらっている	事業所の代表が利用者の好みを聞くこともあり、検食をしながら支援されています。また四季を感じとっていただけるようなメニューも心がけながら取り組まれています。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量や水分量をチェックしており、水分量が少ない利用者にはゼリーやプリンなどを促している。むせやすい人には刻み食やペースト食にしたり、水分はとろみを使用している		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後にマウスケアを促し、自力で出来ない人は介助している。入れ歯の洗浄も誘導したり、介助している		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツを使用している利用者が多く、失禁の多い人は尿取りパットを使用している。また、食前にトイレの声掛けをしたり、誘導している	個々の排泄状況の把握に努めながら、異常が見られるときは専門医に相談することもあります。夜間でも出来るだけトイレ排泄出来るように支援しています。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便の確認をしており、排便がない時は水分を促したり、散歩に出掛けたりしている。食事に寒天やヨーグルト、果物などを付けるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	自力で入浴できる利用者は希望に応じて入浴している。介助の必要な利用者は複数の職員がいる時間帯に入浴しており、なるべく間隔が空かないよう注意している	スライドの出来る浴槽が設置されています。毎日の入浴を希望している利用者にも可能な限り添うように取り組んでいます。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースで居室で休息できるよう環境を整えたり、夜間は眠れているか巡回し、眠れない利用者には声掛けし、ホールでお茶を飲ませたり、気分を落ち着かせている		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の効力や副作用について看護師から介護職員に説明しており、薬の変更時は注意点など連絡ノートで情報共有している		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやテーブル拭き、おやつ配布などを出来る利用者の行ってもらったり、誕生会、敬老会、夏祭り、ドライブなどを開催し、御馳走を楽しく食べたり、ゲームや風船バレーなどを行い気分転換を図っている		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防で外出は少なくなったが、近くの道の駅や港駅まで散歩したり、天鷲城までドライブや花見などに出掛けている	感染症予防策を徹底しながら、個別の希望外出は可能な範囲で支援しています。また短時間でも外気に触れる機会をつくっています。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者にお金を所持させることはトラブルの原因なるため、本人に説明し金庫に預かり、出掛けるときに持たせて、使ったら残金を本人と確認してまた、金庫に預かっている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設のホールや居室に温度計を置き、室温を一定にするように管理をしたり、洗面所やトイレの清掃をを1日2回行い、汚染時はその都度行っている。また、ホールは食後必ず床の清掃を行っている	事業所内は清潔で気持ちよい共用空間となっています。換気にも心がけ一日数回実施されています。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを3つ置いており、自分の好きな場所に座って仲の良い利用者と会話したり、テレビを見たり、また、一人で過ごしたいときはテーブルの自分の席に座って過ごしている		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自分の使い慣れた物や好みのもを持ってきたり、仏壇を持参し毎日水をあげて家にいるときと同じように過ごしている	家具類の配置は入所時には、本人・家族の希望で配置、その後は本人の状態や動線を考慮しながら本人と話し合い、安全を第一に気持ちよく過ごせるようにしています。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設の中で自分一人で行動できるよう、トイレや電気のスイッチを明示したり、ホールのテーブルに座る場所の椅子に名前のシールを貼って迷わないよう工夫している		